



《収穫後すぐ始まる土づくり》

お米の収穫が終わったらすぐに、翌年のお米作りがスタートします。
令和6年10月下旬頃からトラクターで田んぼを耕しました。私たちの田んぼのある山口県周南市鹿野（旧鹿野町）は山口県の中では冬は積雪もあり寒い地域です。10月下旬には霜が降りる日もあり11月20日を過ぎると雪が散る日もあります。トラクターで藁を鋤き込み地温があるうちに藁の分解を促します。霜が降りると耕された土の塊は、夜の寒さで凍り、日中の暖かさで溶けます。これを約5か月の間、春まで繰り返すと土がゆっくりとほぐれていきお米作りがやりやすくなります。



《あわただし春、催芽と種まき》

冬の寒さでほぐされた土をきれいに整地するために3月中旬を過ぎて田んぼが乾いている日を選んでトラクターで耕します。3月に入るといきなり忙しくなります。苗の育苗のために粃を水につけ、水分を吸収させる浸種を行います。今年は3月22に浸種を開始しました。十分に吸水した種もみを30～32℃の温湯につけて加温し、催芽します。

種まきの前までに育苗するビニールハウスを整地して転圧します。凸凹していると苗箱の水分量がそろわずに苗の長さがばらばらになるので、レーキで平らかどうかを確認しながら土をならします。3月だけど汗だくになります。だんだん体がお米作り用に慣らされていきます。

今年は3月30日に季節外れの雪が散らつく中ビニールハウスで粃まきをしました。育苗箱に土を入れて粃を均一にまいて覆土をします。土入れ→水やり→粃まき→覆土まで機械でできます。水を吸った土が入った育苗箱をハウスに一枚ずつ並べていくのが重労働です。この日は800枚種まきをしました。保温と保湿のためにシートを被せて種まき作業が終わります。



《育苗》

種まきの日の約10日後に芽が出揃ったことを確認して保温シートをはがします。シートを剥がすときは芽が出揃っているか毎年ドキドキします。シートを剥がした日から田植えまで苗に毎日水やりをします。タイマーで自動散水します。4月10日までは急に寒い日があつたりする反面4月20日を過ぎると急に暑くなつたりするので温度管理には気を使います。



《水入れと代掻き》

4月10日くらいになると田んぼに水が入り始めるので4月上旬は川から用水路の溝掃除をします。刈り払い機とジョレンをもって集落の人との共同作業です。高齢化で毎年、溝掃除をする人が減っています。長い水路は2kmくらいあります。

田んぼに水が入るとトラクターで荒代掻きをします。土を水に馴染ませてモグラが開けた穴をつぶして水がたまりやすくします。水が田んぼに入るとカエルが出てきます。そのカエルを食べようと鳥がトラクターの周りに沢山きます。田植えの3日前くらいにもう一度、本代という代掻きをして田んぼを平らにして田植えができるように仕上げます。田んぼの水の量で代掻きがきれいにできるかが決まるので水加減に気を使います。綺麗に代掻きができないと栽培期間中の水管理が難しくなります。



《田植》

今年も5月2日から田植えが始まりました。肥料は田植え機に施肥機がついているので田植えと同時に施肥します。

この時期になると準備をしながら作業を進めていくので、役割分担をして作業をします。水管理をする人、代掻きをする人、苗管理をする人、苗を運ぶ人、田植えをする人、使った箱を回収して洗う人。それぞれに役割を持って一気に進めていきます。

田んぼの水の照り返しで、5月には日焼けで真っ黒になっています。

《草との戦い》

田植えができると、田んぼの管理作業に移行します。毎日の水管理、草刈り。田んぼの中の除草、追肥、防除、収穫となります。

田植えが終わるとすぐに草刈り作業をします。草との戦いの開始です。

1シーズン4回は畦畔の草刈りをします。草の成長は早いので28日後には草刈りをしないと草が伸びすぎて、さらに重労働になります。

6月になると稲がスネの高さくらいに成長します。そのころには田んぼの中の草も大きくなります。6月4日にドローンで除草剤を散布しました。少量の除草剤を速度の速いドローンで散布するので、高度なテクニックが要求されます。この時に春の代掻きが丁寧にできていないと水張りが均一にならず、効き目が出ません。除草剤はたくさん散布しないので、さらに田んぼの中に入って草を取ります。

腰が痛くなります。気が遠くなるほど辛い作業です、忍耐強くなりたい方にお勧めです。田んぼの中でも

外でも草との戦いです。農業のほとんどの作業は草との戦いです。



《真夏に行う追肥と防除》

山口県の梅雨明けは平年より3週間くらい早い6月27日でした。長い長い今年の夏が始まりました。6月18日にドローンで茎を強くする肥料を散布しました。肥料は重たいのでドローンは離陸するだけで、バッテリーがあっという間に減っていきます。

1フライト10分くらいで均一に肥料をまきます。神経を使うので、楽ではありません。

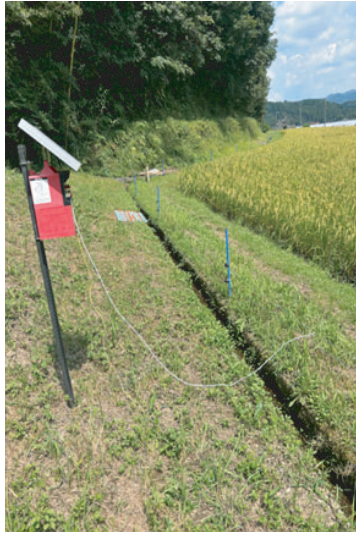
6月が終わるころには稲の草勢が強くなり地面が見えなくなってきました。この頃、茎の下には穂ができ始めています。穂に栄養が行くように7月8日と7月16日にドローンで追肥をしました。平年より早い追肥です。葉っぱの色を見て追肥の量を決めます。今年は暑すぎて肥料が早くに効いてしまって穂に栄養がいなくなるかもしれないといわれていたので、追肥の時期の見極めが難しかったです。さらに今年はカメムシ注意報が発令されていたので穂が出始める前に、いつもより早めに防除を行いました。出穂もいつもより1週間くらい早かったです。7月17日にドローンで防除しました。近所の農家と同じ時期に防除することでより効果がでます。穂が出揃ったタイミングで2回目の防除を7月31日に行いました。当地域は1年で一番暑い日が7月31日だと思っているので、ドローンのプロポを持って田んぼの間を走りまわって体重が1日で1.5キロ減りました。ダイエットできて良かったです。



《落水後はイノシシとの知恵比べ》

盆前までほとんど雨が降らなかったため、穂が実る時期の水管理が大変でした。水がいきわたらず、枯れてしまったところが少しありました。穂が大きくならなかったところは刈り取り後の臼挽きの時にはじかれて、出荷されません。盆前に大雨が降ったので、その後田んぼから水を落として稲刈りに備えました。落水したら稲から穂に養分がいくようになります。穂が重くなっていくので雨が降る度に稲が倒れていきます。稲が倒れると稲刈りの時コンバインが詰まって大変です。倒れないように作ると収量が少ないです。いい加減が難しいです。

落水する時期になり穂が大きく実り始めると、イノシシがお米を食べに田んぼに来ます。田んぼによってはイノシシのためにお米を作っているのかと思うくらい、お米を食べられます。イノシシが寝転がって稲を食べたところは収穫できません。今年は農研機構の専門家の人にイノシシの特性を理解してイノシシが田んぼを荒らさないようにする方法を教えてもらいました。効果はでたけど、いろいろなところでイノシシが出てくるので対策が追いつきません。やっぱり、毎年やられる田んぼ3枚は荒らされました。毎日夜11時ころにバイクで田んぼを見回りにいきました。だけど朝起きて田んぼにいったら、やっぱりやられていました。イノシシは頭がいいです。



《稲刈り》

8月28日に農林事務所の人がお米の状況を見に来てくれて、8月30日から稲刈りするといいいよと言われて令和7年の稲刈りを開始しました。平年より1週間くらい早く稲刈り開始となりました。9月5日までは雨の日がなくて順調な稲刈りでしたが、翌週からは雨が多くて稲刈りが思うように進みませんでした。稲刈りは朝露が乾いた10時過ぎてから行います。雨に濡れていると稲刈りができないので、夕立が降ると、その後に晴れても稲が乾くまでは稲刈りができません。コンバインでの稲刈りは危険な作業なので、神経を使ってクタクタに疲れます。粃の埃で体もかゆくなります。だけど、コンバインで稲刈りをした後の田んぼを見ると収穫できた喜びで胸がいっぱいになります。刈られていく藁の香りが気持ちいいです。子供の頃からコンバインでの作業が大好きです。最近の大型コンバインは馬力もあって速度も速いので気持ちがいいです。価格が1000万円を超えるのに2週間くらいしか使わないけれどコンバインは大好きです。



《お客様のところへ》

忙しくても頑張る弊社従業員とお米作り歴62年くらいの80歳になった父、日々成長している息子たちと無事にお米作りができました。

令和7年度 山口県産 鹿野コシヒカリができましたので、ご賞味ください。



ふくぷくファーム株式会社
代表取締役 白井智規
取締役 白井裕貴
スタッフ一同